

令和3年第10回定例会会議録要旨

◆ 出席委員 荒木幸一 海老原千浩 山本憲一 陶山光秀 日高まり子

◆ 欠席委員 なし

◆ 出席職員（事務局） 児玉和弘 佐藤利明 佐土原敏郎 川崎昌彦 中武瞳

◆ 会議録署名委員指名 海老原千浩

◆ 教育長報告要旨（10月1日～10月31日行事結果）

○10月3日（日） 小学校運動会

10月17日（日） 中学校体育大会

教育委員の皆さまにご参加いただき、ありがとうございました。この後、感想等を含めてお聞かせ願えればと思います。

○10月4日（月） 学校支援訪問（木脇中）

10月22日（金） 学校支援訪問（木脇小）

10月より学校支援訪問が行われています。担当の委員の皆さまにはご参加の方をお願いしたいと思います。

教育長 それでは運動会・体育大会での感想等がございましたらお願いいたします。

教育委員 木脇小学校と木脇中学校に出席しました。午前中での開催でしたが、小学校は非常に内容も濃くて、子供たちも生き生きと頑張って競技・応援していましたので見応えがあって、楽しかったです。応援でも元気な声を出して、運動会でしかできないことを学ぶという意味では、すごく生き生きしていい運動会だったと思います。中学校では、学校評議員の方も来られていたので、久々にいろいろと話をしながら運動会を見ることができました。少しずつそんな形で来賓の方たちにも来てもらえる学校行事になるといいな、と思いながら見せていただきました。

教育委員 八代中学校ですが、いい意味で普通でした。生徒たちが運営と競技と応援の三つの役目をしっかりとしていて、いつもの体育祭と同じようにやっていました。内容はほぼ全部がやれていたの、コロナが終息しても午前中開催でいいのではないかと思います。八代小ですが、団分けせずに行われていました。競技は、児童数が少ないので、徒競走と表現、最後に全校リレーでした。団がないので、競い合っても得点はないし、勝敗がないというのは経験がないので、不思議な感じはしました。分かりやすく言うと、学習発表会の体育版みたいな、保護者に日ごろの成果を披露するとい

うような形だったのかなと思います。全体としては、コロナ対策が1番でその後に熱中症対策ということで、そちらの方に重きを置くというか、最大限の対策だったのかもしれないけど、ちょっとやりすぎ感もありました。私の感想ですが、児童はちょっと運動不足感が見られました。児童たちは競技だけをして、運営もしないし、応援もしない感じだったので、やはり学習発表会という感じに見えました。

教育委員 森永小学校と本庄中学校に出席してきました。去年はコロナ禍の中でよくやったなと思ったのですが、今年も同じような感じで、慣れてきたら物足りないなという感じでした。来年から開催時期も変更になれば、熱中症対策とかも見直して、保護者も楽しめる運動会を実現してもらいたいなと思いました。

教育委員 本庄小学校と本庄中学校に出席させていただきました。どちらとも先生方、中学校では生徒も含め、非常に創意工夫されているのなと感じさせる内容でした。小学校については、表現と団技を一緒にするプログラムをどの学年もしていて、プログラムを縮めるという意味もありますが、その中でも子供たちがすごく生き生きと表現している様子を見させていただきました。競い合うという面では、小学校の方が中学校よりあったのかなと思いました。中学校は最初に特選の200メートル走があつて、あとは団技での競い合いで、それと学級対抗リレーで全員が走るという形でした。体育というよりも、学級の団結力というかコミュニケーション力というか、どういう風にアイデアを使い、みんなを生かすかという、一つの考え方ですよ、全員リレーというのは。ですから特別に目立つ子がいなかったことがすごく印象的でした。どちらとも午前中開催ということで、午前中でもできるのだな、子供たちもその方が疲れないのかなと思いました。午前中開催という考え方も今後検討されてもいいのかなと感じました。以上です。

教育長 ありがとうございます。本庄中学校で教頭先生にお聞きしましたところ、まずは内容を生徒自身に考えさせたということでした。もう一つは、プログラムを作成するにあたって、PTAの方とも話をしたということ。それもあって、PTAの方もすごく積極的に手伝ってくれたという話がありました。そういった意味では今度の総合教育会議で議題になっています、地域と共に開かれた学校とはどうあるべきか、このような行事を通して考えていけないといけないのかなということを感じたところです。ありがとうございます。

次に、学校支援訪問にも行っていただいておりますので、感想をお願いします。

教育委員 木脇小学校に行かせていただきました。タブレットを使用している授業参観をしました。びっくりするぐらい内容がすごくて、先生たちの努力がすごく見られた授業でした。子供たちに聞くと、タブレットはすごく楽しいと言って、生き生きと授業をしていたのが印象的でした。1年生の時から積極的に活用して、あれだけ使いこなせれば、5年後6年後の使い方というのが、すごく楽しい内容でした。支援クラスの子

供たちもしっかり操作ができていて、すごく生き生きとしていました。どのクラスもしっかり先生方が対応されていることがすごく嬉しかったです。また、タブレットの操作だけではなくて、書くことも重視されていて、ちゃんと使い分けをされている授業内容でした。今後また機会があれば見せていただきたいと思うほど、木脇小学校の先生方が頑張っていられました。子供たちにとってよりよい授業内容にしていきたいなと強く思った学校支援訪問でした。ありがとうございました。

教育委員 木脇中学校に行かせていただきました。授業内容はキャリア教育でした。タブレットを使う前後での授業の変化等は分からないのですが、私の感覚ですごいと思ったのは、頭で考えていること、ハートで思うことを文字にして文章にして人に伝えるという事、そのやり方・能力を鍛えている感じがどの教科でもすごくて、昔の教育と新しい教育を融合させたような感じで、将来的にかなりよくなるのではと思いました。

教育委員 木脇中学校に行かせていただきました。研究指定は2年目ということで、先生方がまず基礎的な研究をされたうえで次のステップにいつてらっしゃるということを感じました。タブレットを使うことが一番にあるのかなというところで、教科の特性を活かしていろいろな場面で使われており、それがすごく大事なのかなと感じました。授業力が高い先生は、タブレットの使い方が、ほかの教材と同じレベルで使いこなせている方もいました。一方で、何のためにタブレットを使うのか、使うことによってどんな効果があるのかというところがもう少し見えてくると、学校内でいろいろな意見を出し合いながら活用できるのかなと思いました。全体的には生徒たちの操作性も高く、興味・関心を持って、フリーズしても落ち着いて対応している姿も見ましたし、録画してその様子を皆で共有する国語の授業を見て、かなり性能がいい端末だなと思いながら見させていただきました。やはり先生達は日々かなり大変な苦勞をされているのではないかなと思いつながら、新しい令和型と言われている教育というのが少しずつ国富町の中でも芽吹き始めているのかなという風に思いました。一つ感じたのは、タブレットがあると机が非常に狭く、生徒たちがなおしたり出したりする姿が見られたので、環境的に授業の中で子供たちが受けやすいようにしてあげると、もう少しスムーズに使いやすくなるのかなと思いました。

教育長 ありがとうございました。様々な視点から感想をいただきました。委員の皆さまから感想をいただきましたが、事務局から何かないですか。

教育対策監 今年になってタブレットを使い始めた状況の中で、先生方は研修等で情報共有しながら地道に進められているところなので、まだ直接授業に結び付けるところまでではない状況ですが、まず使うところから進めていただいております。また委員さんが言っていた、頭で考えたことを表現するという事は、これから求められる資質能力であって、全国学力学習状況調査でも表現するという事が問われます。ですから思考することは非常に大切なことであって、その思考に加えて自分がどういう立

場でどういう風に表現するのかということ先生方も意識して授業を構築していただいているのではないのかと思います。今まさに求められている力だと思います。

教育長 今年度、木脇小と本庄中が県のICTモデル推進校になっていまして、11月に公開授業を行います。先生方は一生懸命にされていて、県内でも正直まだ進んでいないところもある中で、国富町は非常に頑張っていると思っています。お時間等に都合がつけば見に来ていただくといいのかなと思います。
それでは続きまして「その他（1）行事予定について」ご説明をお願いします。

◆その他

◇行事予定について 各課行事予定表に基づき説明

教育長 何かご質問がありましたらお願いします。

教育委員 ある小学校で、今後運動会をどうするかということで、保護者にアンケートを取ったそうです。結果について詳しくは聞いていないのですが、昼までで終わった方がいいという意見が多かったということで、今後どうなるのかなと思っています。

教育長 2年続けての午前中開催で、半日で終わらせるということは、いろんなプログラムや行事も削減しているでしょう。ただそれで本当にいいのかということですよ。

教育委員 コロナのせいもあるかもしれないけど、先生方と保護者のコミュニケーションがうまくいってないと感じる場面もありました。人間関係がドライになると、今まで問題にならなかったことでも問題が出てきたりする弊害もあると思います。昔は運動会が終わったら保護者は地区の公民館に集まり、先生たちもそこに回ってくるというような時代もありました。それでコミュニケーションがとれていたということもあると思います。そういういい面もあるので、大人も楽しめる運動会というのも大事ですよ。今はちょっとドライすぎるかなと思います。

教育長 確かにそういったものがコロナによって自粛で来ていましたからね。ただ来年の運動会については、来年になればまた変わることがあると思います。大事な今は言われたように、一緒にPTA、学校、場合によっては子供の意見、地域の意見を取り入れながらやっていくのが、本当に開かれた学校じゃないかなと思いますし、そういった学校づくりを進めていくために来年からコミュニティスクールを導入し、開かれた学校づくりを進めていけたらなと思っていますところですよ。また校長会の折にそういった話は随時していきたいと思っています。

教育委員 今の教育方針的に、競わせないとか、順位をつけないというような教育になっていませんよね。

教育長 それはありません。一時期、地域によっては、平等性の面から順位をつけないやり方をされていたことがありました。県内では、今はタイムを計って同じような速さの子たちを走らせているのではないかと思います。

教育委員 いい悪いはあると思いますが、競い合わないと力が出てこないし、その子が自分では気付かない奥にあるものが出てくる時もあるので、一概に順位をつけるのがいいかどうかはわかりませんが、そういう部分で子供を伸ばすという面もあるのかなと思っています。

教育長 中学校では、選挙で生徒会の役員を選んだりしますが、昔は小学校でもやっていました。今は投票で子供たちの1位が決まるのがどうか、ということではなくなったり、リーダーとはみんながなるべきだといって、リーダーを作らなかつたりとか、そんな考えも一時期ありました。いろんな意見がありますので平等性をより意識しているのでしょうか。

教育委員 違う方向で意識しすぎているような気がします。大人になれば競争にはさらされるので、若いうちにそういったことを経験することは必要なことだと思います。

教育委員 やはりこの考え方は人権の問題と絡んできていると思います。自己有用感という言葉がありますが、子供たち一人一人が、自分は自分であっていいんだよというところが、どこでどう保障されているのか、運動会で保障される子もいれば、普段の学習の中で保障される子もいる。様々な場面で、子供たちの自己有用感が保障されている学校生活であることが必要だと思います。体育大会の午前中開催についても、楽をするとかそういうことではなくて、こういう意味があって午前中のプログラムに仕上げて、さらに地域連携をするために学校ではこういった取り組みをしていくのだということころは、きちんと説明責任が学校の中にあることが大事かなと思います。いろんな考え方があっていいわけなので、多様性に対してどのように対応していこうかという事を、職員だけではなくて、地域も含めてみんなで話し合うことが大切です。

教育長 そういったところも議論できる学校風土であったり、地域風土であったり、そこを作り上げていくことが大事かなと思っています。ありがとうございました。その他に何かございませんか。それでは以上をもちまして定例教育委員会を終了します。

(閉会午後3時50分)